

## 共食の大切さ

共食（きょうしょく）という言葉があります。  
「人間は共食をする動物である」  
（石毛直道氏：元国立民族学博物館長・名誉教授）  
共食をする動物は、人類だけ。人類固有の行動です。  
なぜ、人類は、共食ができるのでしょうか。  
また、共食は、思いやりの心を育むと言われています。なぜでしょうか。



### ○人類固有の行動である共食を成立させるもの⇒食物の分配

食物の分配を成立させる要素には、争いが起きないように一定の取り決めに従って配分すること、他者のところに食物を運搬することが必要です。繁殖や生存という目的が明確ではない状況で、自ら食物を分配する行動は、人類にしか認められません。分配には、鳥類が給餌として一時期だけ繁殖行動を行う「給餌としての分配」、食物獲得戦略として、群れをなしてライオンなどの肉食動物が行う「生存のための分配」があります。この2つは、社会的な意味を持つ人間の食物分配とは全く違う意味を持ちます。

### ○発達過程における分配行動の出現（いつから？）

子どもから母親への分配があげられます。  
赤ちゃんが、お母さんの口に食べ物を入れてあげる行動で、0歳代後半にみられます。  
自分と他者＝二項関係の認識行動です。  
さらに、自分と物、他者のという三項関係に発展し、「他者を通して世界を知る方法」として認知能力につながっています。  
例えば、赤ちゃんは（自分）、ガラガラ（物）を持っている母（他者）がニコニコしているので、ガラガラ（物）が楽しいものだとして認識できます。他者を通して世界を知る方法であり、指差し、渡す、見せるなどの行動も一緒に現れます。

### ○三項関係は、他者の心を推論する高度な能力

三項関係は、人類に最も近いチンパンジーにも見られない行動です。食卓で、家族の顔色が悪い、元気がないとき、「大丈夫かしら、何かいやなことが、あったのかな」など、相手の気持ちを思いやることができるのも、一緒に食べる＝共食の行動の積み重ねがあるからなのです。